



流行！流行？流行：

「今年の冬は〇〇が流行る！」とかよく聞くが、あれは誰が決めているのだろうか。おそらくどこかのオシャレな人たちが決めているのだろうが、考えてみるとおかしな話である。それらの作られたブームに乗る人がいて、毎年毎シーズン、流行やトレンドというものが生まれては消えていく。

買ったものは一つもないし、「流行っていないから」といつて諦めたことも一度もない欲しくなって買ったモノがたまたま流行っていたことはあるが。

人それぞれ価値観は違う。モノや服装などすべてにおいて、「流行」などというものを勝手に共通語と思いついて話さないでほしいと思う。「それって流行っているよね」と



羽ノ浦町 泰地 孝志さん

か「そんなモノ流行っていないよ」というより、私は自分の好みや価値観を大事にしていきたい。だからと

いつて、「流行」を好む人たちに対して、文句や悪口を言うつもりはない。

お互い相手の価値観を尊重して、楽しく仲良くいきましよう。

次は、羽ノ浦町の賀出伸吾さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

佳作 福崎 孝子

産土の杜に展ぐる遊山箱面影の母傍らに呼び

佳作 米田 啓子

やわらかき春の光に水ぬるみ芹青青と水路埋

めゆく

佳作 清 善恵

ちらほらとほころび初むる白梅に雪しんしん

と積もる夕暮れ

佳作 東明 貴美

雨あがりひよつこり顔出すふきのとう淡き色

香の春告げの使者

佳作 木内 照代

窓に見る山の木一本一本を白く描きぬ朝から

の雪

佳作 森 マスミ

東風吹きてにほふ梅が香なつかしく春耕の手

をしぼし休める

佳作 倉橋寿満子

昏はやく峡の梅林に人消えてはなやぎなほも

宴の予感

鎌矢美代女
コスモスの風のもつれを風ほどく

西岡 侃
名も知らぬ咲ける野花に秋の風

阿部ますみ
休耕田細波のごと猫じやらし

佐野 峯子
初孫のお七夜飾る秋桜

富永 恵女
リフトまで欲しき一灯ちちろ虫

中川よし子
八方へとんで蟻蛸の見え隠れ

大平 夏子
爽やかや庁舎伸び行く町に住み

田中 栄子
車椅子最前列に敬老日

小谷 史井
予後の身を布団に被う夜の秋

川柳
生きてゐる嫁の立場がする法事

田上 鶴子
三度目も初耳にする思いやり

武田 敏子
自他ともに許すラーメン党党首

鈴木レイ子
贅肉をもらつてくれる人がない

岩佐まさよ
先を行く貧乏神と二人旅

酒本 耕造

俳句

阿南市俳句連合会選

横手 久典

米朝の嘶聞き入る秋の夜